

いながら、安心して子育てできる体制の充実に取り組んでまいります。

問 産前産後ヘルパー事業の導入への課題を伺います。

答（保健福祉部次長）…ヘルパーなどを派遣し家事支援を行う子育て世帯訪問支援事業の利用には、一定の要件があるとともに市の保健師への相談、面談が必要となる点が利用をちゅうちょされるハードルになっていると考えます。近年は実家が遠く日常的に親族の支援を受けるのが困難な方もおり、もう少し気軽に家事支援を利用することで育児負担が軽減されるよう、産前産後ヘルパー事業の導入も研究してまいります。

問 ひとり親世帯で、極めて緊急性が高く複合的な困難を抱えた方へ市独自の経済支援の創設への見解を伺います。

答（保健福祉部次長）…行政が行う助成制度は限られた財源の中でより支援が必要な家庭を確実に支えるため、一定の所得要件や利用要件を設けており、個別事情に応じた新たな助成制度の創設には慎重な検討が必要と考えます。一方でひとり親家庭を取り巻く環境は多様化し既存の制度だけでは捉えきれない課題もあることを認識しています。

困りごとを抱える家庭が孤立しないよう、まずは適切な支援につなげることが重要であることから、心理的な負担を軽減できるよう相談しやすい場の確保や親子が交流できる機会の提供に取り組んでいます。

問 令和8年4月から定期接種化が決まったRSウイルスワクチンについて、市の今後のスケジュールを伺います。

答（保健福祉部次長）…本ワクチンの定期接種化は既に厚生労働省の専門部会で了承され、今後正式に定期接種として決定される見込みです。今は国から詳細情報は示されていませんが、令和8年4月の接種開始に向けて財政部門との調整や医療機関などへの協力依頼など準備をしていく予定です。

その他の質問

・海老名市自治会支援宣言について



多様な学びの保障について

涼風の会 あいり あいこ

問 学校におけるさまざまな問題を解決するためにフルインクルーシブを掲げていることは理解しますが、学校が変わるには時間がかかります。今不登校の状態にある子どもたちやその保護者にとって、学校と家の二者択一を迫られることは非常に厳しいため、フリースクールやびなるーむのような学校以外の学びの場の拡充が必要だと考えます。現状の確認として、市内の不登校児童数の推移と、市内のフリースクールとびなるーむの利用者数を伺います。

答（教育支援担当部長）…不登校のお子さんは国の調査での数字で、小中学生合わせて令和6年度が412名、令和5年度が398名、令和4年度が341名です。

市内のフリースクールを利用している小学生は22名、中学生は13名で計35名です。びなるーむの利用人数は小学生2名、中学生12名で計14名ですが、参考までに令和6年度は小学生2名、中学生22名で計24名、令和5年度は小学生4名、中学生24名で計28名でした。

問 学校がフリースクールのような居場所を作ることには難しいと感じています。世田谷区が実施しているような公設民営のフリースクールについての見解を伺います。

答（教育長）…フリースクールはそれぞれの成り立ちが違っていて、サポート校が小学校部門も設けて学校法人のような形で進めているものから、ボランティアとして個人が設置したフリースクールまでさまざまです。

不登校支援団体の方々による支援の場もさまざまある中で、教育支援教室びなるーむについては、入るのにいろいろな条件があります。また市内に1カ所しかなく、中学生は保護者と話し合っ自転車や電車で通えますが、小学生は通うのが難しいという条件もあります。もう少し有効的に活用することを考えて、登校時間などもっと柔軟にするとともに、例えば外国にルーツがある子どもたちへの対応も含めて、もっとフレキシブルに多くの子どもたちが入

れるように、びなるーむ自体の規模を少し拡大しようという計画を進めているところです。

今あるフリースクールなどを不登校支援団体の方々とともに、もっともっと子どもたちが使いやすいような支援の場になるように、そして、びなるーむも改善を図ってきたいというのが私の考えです。

その他の質問

・きょうだい児への支援について
・こども・若者等の意見聴取について



相談窓口のさらなる充実について

立憲民主えびな 藤枝 ふみひこ

問 不登校の増加傾向が一向に止まらず、全国の自殺者が前年より減少しているにもかかわらず小中高生の自殺者が増えている現実を捉え、さまざまな観点から相談窓口の充実を考えていきます。症状が分かりにくい精神疾患にも注目して、不登校・ひきこもりの精神疾患について伺います。

答（教育長）…ひきこもりの相談をされる方の中に、中学校の頃、不登校を経験したという方がいるのは確かですが、不登校の子どもたちは、今の状況では学校という枠の中には入らないけれども、高校生・大人になって、しっかりと生活して社会貢献する方も多くいます。不登校だとひきこもりになるという関係性はないと考えています。

答（教育支援担当部長）…教育支援センターの相談員が受けている不登校の相談は、相談全体の半数近くです。不登校はさまざまな要因が絡み合っています。不登校に係る相談の分類では多いものから順に、家族関係、精神・発達問題、対人関係となっています。

問 精神疾患の正しい理解と支援について伺います。

答（教育長）…児童生徒と多くの時間を過ごす教職員が、一人一人の様子をちゃんと見て、気づくことができるように教師力を高めたいと思っています。